

銀漢亭日録

伊藤伊那男



12月1日(日)▼九時過ぎの新幹線に乗車。冬麗の富士山に拍手。シウマイ弁当。新神戸から有馬温泉へ。黄葉が美しい。「東急ハーヴェストクラブ有馬六彩」は高台。眺望絶佳。ゆつくり湯に浸る。黄金色の湯。マッサージ機に身体を預ける。夕食は持参の林檎と柿と大福餅。

2日(月)▼快晴。温泉とマッサージ。朝、林檎、湯当を散策。太閤の湯、温泉神社、温泉寺。「全寿庵」人生の苦難と共に「俳句の力」のエッセイをだいたい書きあげる。夕食、カップ麺のきつねうどん、甘栗。温泉とマッサージ機。

3日(火)▼今朝も快晴。温泉とマッサージ機。体重55キログラムは少ない。京都で食べるぞ!! 十一時過ぎ、有馬を後にして三宮へ出る。生田宮、生田の森を参拝して京都へ。東本願寺、菅大臣神社(道真公の住居跡)などを巡る。十七時、「味どころ しん」にて和田ちゃん待合せ。ぐじ、車海老のおどり、くもこ、万願寺焼、コッペなど。二十時半、「ザプリンス京都宝ヶ池」へ投宿。今年、六度目の京都。

4日(水)▼窓の下の庭の楓紅葉たならぬ絶景。作句、エッセイの構想など。昼、「御所南・かまた」と和田ちゃん。夜のコースを昼に出して貰う。相変わらず丁寧で見事な料理。隣に旦那についてきた舞妓さんと芸妓さん。十五時過ぎの新幹線に乗車。

5日(木)▼「俳句界」のエッセイ。「銀漢」二月号のエッセイ他「昭和歳時記」(草田勇)など書き上げて投函。数句会の選句。「銀漢」二月号の校正。編集長へ投函。染筆葉書三十枚ほど作成。

6日(金)▼昼、歯科、定期検診。十四時、下北沢の星乃珈琲店にて、NHK俳句の浦川聡子さんと来年の「一句句菜」の打合せ。入院に少し励ましをいたたく。あと、甥の宝飾店に寄る。

7日(土)▼彗星集二月号を理恵さんに送る。春耕賞二次選考送る。昼、「隠れ房 新宿店」。ORIX時代の部下の伊藤会に招かれる。十八集までくれる。二十五年振りの顔も。彼らを捨てて転職したのに、こうして覚えていくことに感謝! (一年前の入院中に話があり、一年延ばしになっていたもの)。

8日(日)▼朝食、大根おろし、ジャコ、京都で入手の酢莖、日野菜の糠漬、丸干、明太子、味噌汁、こはん。蜜柑沢山載っているの、前の分をジュースに絞る。カラスミの手入れ。入院の準備。昼、到来の永福町「大勝軒」のラーメン。

9日(月)▼九時、順天堂医院。MRI検査のあと、B棟十六階の病室へ。今回は個室。今日は血液検査の外は何も無し。持参の漫画「味いちもんめ」などを見たり、テレビを見たり。東京の夕景が美しい。担当の小池先生チームの挨拶を受ける。副作用が少なければ木曜日あたりに退院を考えていると。食事全部戴く。

10日(火)▼シャワー、朝食完食。快晴。藤井先生から治療の説明受く。結局、午後四時位から抗がん剤の点滴投与が始まる。途中、夕食となるが、鯖の味噌煮他完食。二十二時位に終了する。今のところ気分悪化などは無し。

11日(水)▼特に服用作用を感じないで起床したが、徐々に発熱。三十七度五分から三十八度。急に食欲減退。ぐったり臥す。結局持参の蜜柑を二食べた位。解熱剤貰う。

12日(木)▼微熱続き、血液検査をするが、特に異常無しとて、午前中の退院となる。杏さんの迎えを受けて帰宅。林檎、蜜柑、ルレクチュエがうまい! 「大勝軒」のラーメンも少々、うまい。順天堂から紹介を受けた東京目白クリニックの大場院長と連絡。来週からのGCD投与治療はこちらにお願いする。郵便物の処理や返信。夜、京都から到来の豆腐で湯豆腐。明太子、酢莖漬、笹かまぼこ。至福である。

13日(金)▼カラスミの手入れ。ほぼ出来上がり。朝食、ちりめん大根おろし、豆腐と油揚げの味噌汁。丸干、酢莖、明太子、食欲あり。副作用感じない。昼、林檎、紅まどんな、ルレクチュエ。五句会の選句。入院中に毎日新聞の鈴木琢磨氏より朝日新聞の小泉信一記者を偲ぶ会を十四日に企画としており、吉田類、坂崎重盛、鎌田慧、都合つけば山田洋次氏も来るが、と誘いを受けたが、残念ながら断念の連絡を入れる(小泉氏は「神保町に銀漢亭があったころ」に執筆下さった方)。

14日(土)▼「銀漢」三月号のエッセイ(季語について)書く。朝食あり、昼、細打ちうどん、林檎、紅まどんな。「昭和歳時記」のエッセイ一本(中村汀女)書く。夜、湯豆腐、ルレクチュエ。

15日(日)▼快晴続く。「昭和歳時記」のエッセイ(三橋鷹女。十六時、日暮里の「夕焼け酒場」に三十五名程集まって下さり「銀漢亭の日 忘年句会」。米国の青柳飛さん、ジェフさんも。句会を終え、シヤパンの乾杯をして十九時半、先に辞して帰宅。皆さんから激励の力を戴く! 感謝。

16日(月)▼十一時、加々美先生の整体を受く。身体が少し冷えているようだ。こぼろ、甘酒他買物。叩きこぼろを作る。甘酒少々、湯豆腐。数句会の選句。

17日(火)▼九時、東京目白クリニックへ桃子に送って貰う。血液検査の結果、白血球が三千に達しておらず(二千六百)、二回目の抗がん剤点滴も延期。白血球を増やす注射を受けて帰宅。副作用は感じていない。こぼろ、「身体の中では相当な副作用があるんですよ」と大場院長。成城駅の売店で「美登利寿司」のちらしを買う。「大勝軒」のラーメン、おでん。食欲あり。林檎も。

18日(水)▼「銀漢」二月号の選句。数句会の選句。到来の女界灘一本釣のかんばち一本を捌く。刺身、昆布メ、カマは塩を打。アラは大根と汁に。

19日(木)▼体温上ってくる。三十六三度。カラスミ干上がる。美しい仕上がり。気仙沼のみりん干で朝食。風呂ゆつくり。甘酒など。かんばちの粗

煮。西利の漬物など。

20日(金)▼十四時、調布「アカアミー愛とびあ」の俳句講話。「正岡子規の食欲」について一時間半。あと、寶田さん、竹内夫妻、広佐、我部、蓮子、三井さん他と喫茶店。寶田さん「銀漢」入会と。これで調布の講座から三人入会。

21日(土)▼数句会の選句。「銀漢」二月号の選句。途中、転寝やテレビ。兄から来た柚子があったので柚子胡椒を作る。桃子の造った甘酒旨い。夜、かんばちの昆布メ、千枚漬など。

22日(日)▼到来の天美卯を玉子かけごはんに。でべらかれい。「銀漢」二月号の選句稿を各担当者に送る。今回は選評無しとさせていた。二句会の選句。夜、金目鯛煮付。

23日(月)▼八時五十分、東京目白クリニック。血液検査の結果、白血球十分な量に増加しており、治療可と。三時間ほど点滴。昼過ぎ終了。帰宅後も特に異常を感じることなく、昼食しつかり(大根おろし、ジャコ、明太子、とろろ芋、甘酒、林檎、柿など)。やや気怠さはあり。昼寝。夜、かんばちカマの塩焼、とろろ汁、酢莖の茶漬。蜜柑など。

24日(火)▼夜中、ふと計った体温が三十四八度には驚く。一週間で別人のような血液検査表もそうだが、自覚は少ないものの体内では相当なせめぎ合いが起きているようである。朝、三十六四度、回復して、娘と、すっぽんスープと採み海苔の雑煮。旨い。夜、クリスマススープと、娘と孫が鶏焼、ピザ、チヨコレートケーキ、オナオケラフランスなど作る。私は出来たてはやばののカラスミを供す。上々の出来!

25日(水)▼夜中、体温三十五五度(昨日よりは良い)。朝、常の食事。この頃、甘酒を飲む。昼、とろろ蕎麦。一月の調布の俳句講話に「京都の食物」を紹介するつもりでノートにまとめ始める。なかなか楽しい作業。夜、ゴルゴンゾーラと奈良漬のピザ、舞茸のアヒージョなど桃子の作ったもの。こぼろ、うのを食べる気持ちも出てきている。